

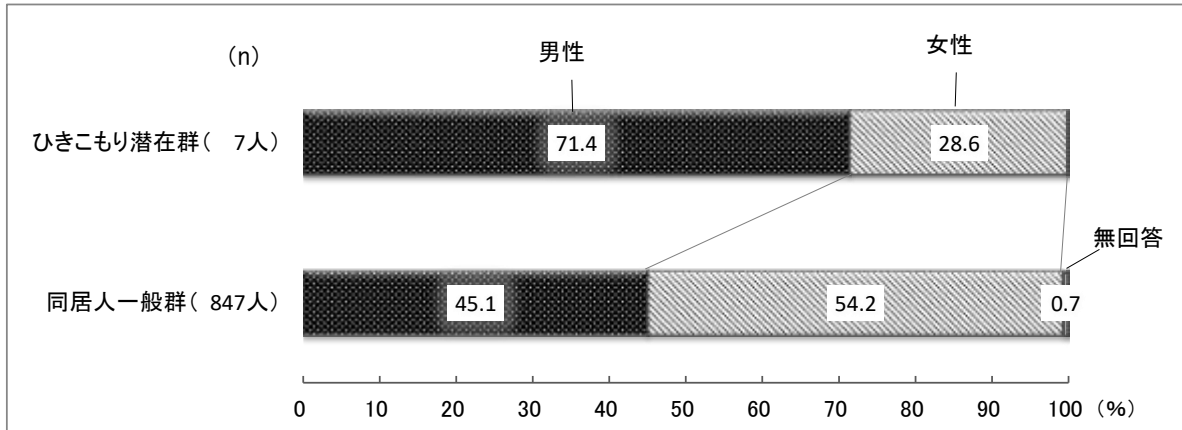
3-2 同居人票

■ 基本属性

Q 1 調査対象の方の性別をお答えください。(単一回答)

- ・ひきこもり潜在群は「男性」が71.4%、「女性」が28.6%となっている。

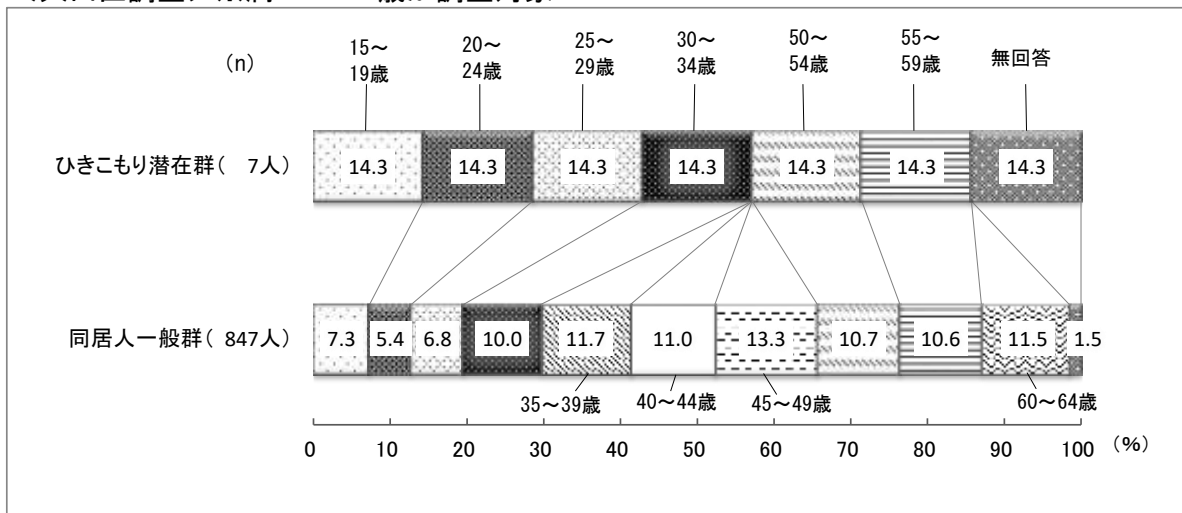
<大田区調査> ※満15~64歳が調査対象



Q 2 調査対象の方の年齢をお答えください。(単一回答)

- ・ひきこもり潜在群は「15~34歳」「50~59歳」となっている。30代後半~40代は該当者なし。

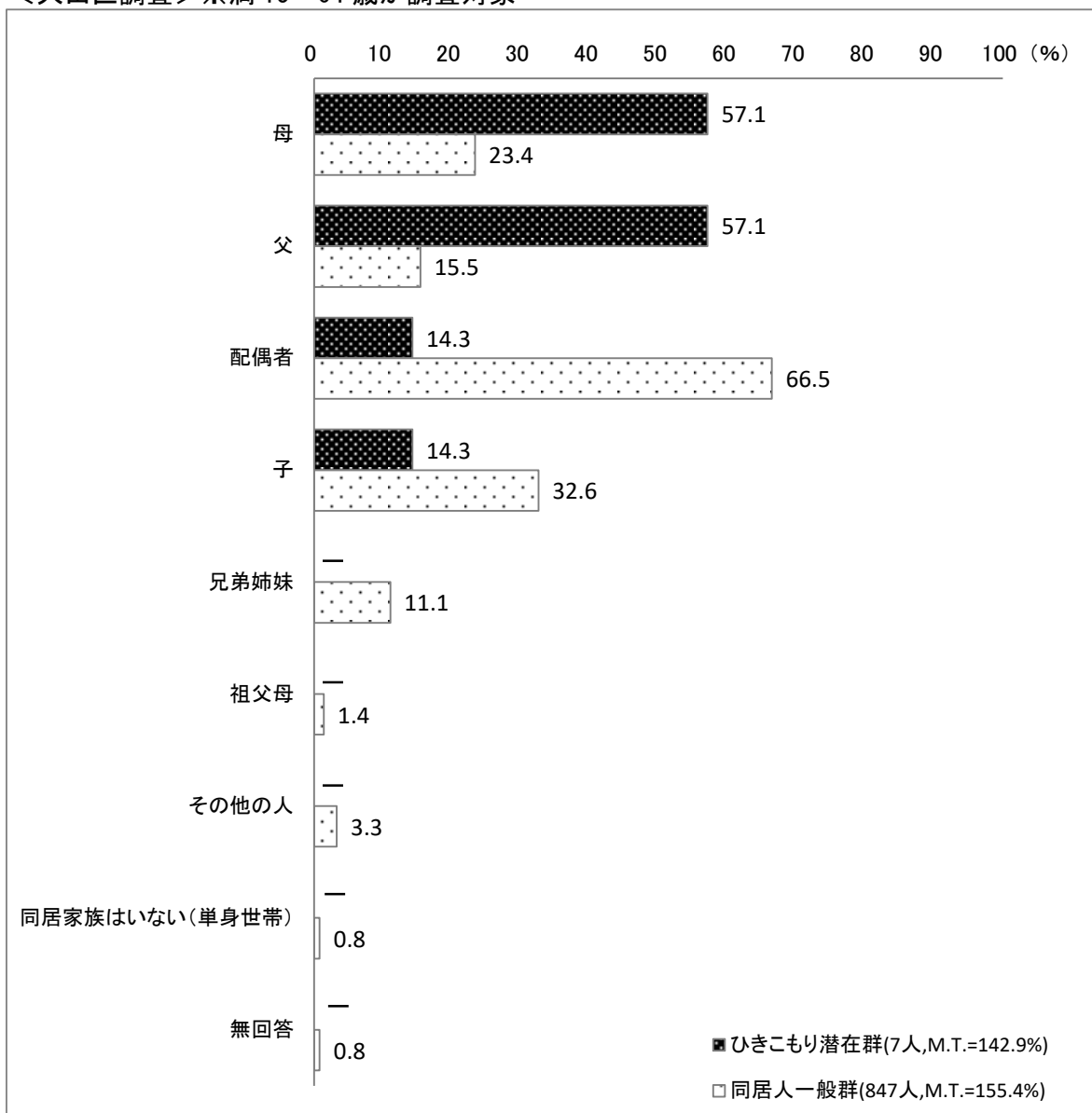
<大田区調査> ※満15~64歳が調査対象



Q3 現在、調査対象の方と同居している方について、調査対象の方から見て該当するものに○をつけてください。(複数回答)

- ひきこもり潜在群は「母」「父」が57.1%、同居人一般群では「配偶者」が66.5%、「子」が32.6%となっている。
- ひきこもり潜在群では、同居人一般群と比べて両親と同居の割合が高い。

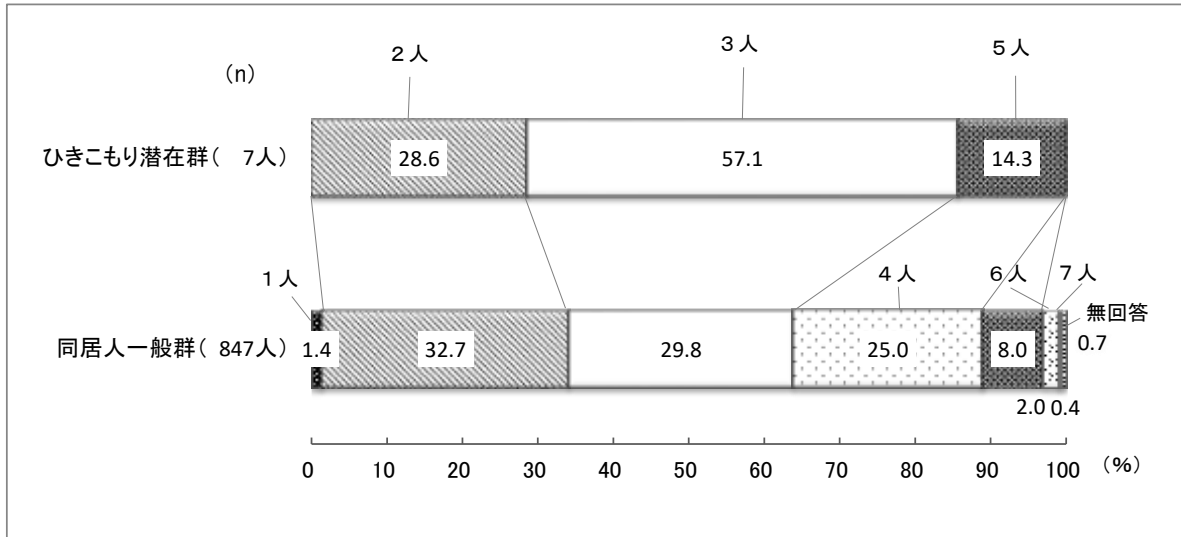
<大田区調査> ※満15~64歳が調査対象



Q 4 現在、同居している人は合計で何人ですか。調査対象の方も含めた人数を記入してください。(数字で具体的に)

- ・ひきこもり潜在群は「3人」が57.1%、「2人」が28.6%となっている。

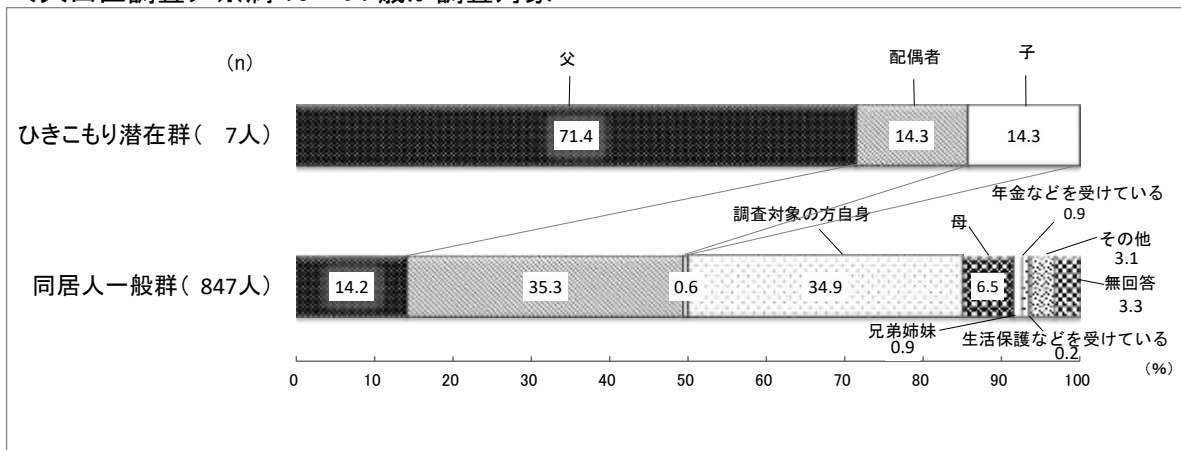
＜大田区調査＞※満15～64歳が調査対象



Q 5 調査対象の方の家の生計を立てているのは、主に調査対象の方から見てどなたですか。生計を立てている方が複数いる場合は、もっとも多く家計を負担している人をお答えください。また、調査対象の方が、主に仕送りで生計を立てている場合は、その仕送りを主にしてくれている人をお答えください。(単一回答)

- ・ひきこもり潜在群は「父」が71.4%、同居人一般群は「配偶者」が35.3%、「調査対象の方自身」が34.9%となっている。
- ・ひきこもり潜在群では、同居人一般群と比べて父の割合が高い。

＜大田区調査＞※満15～64歳が調査対象

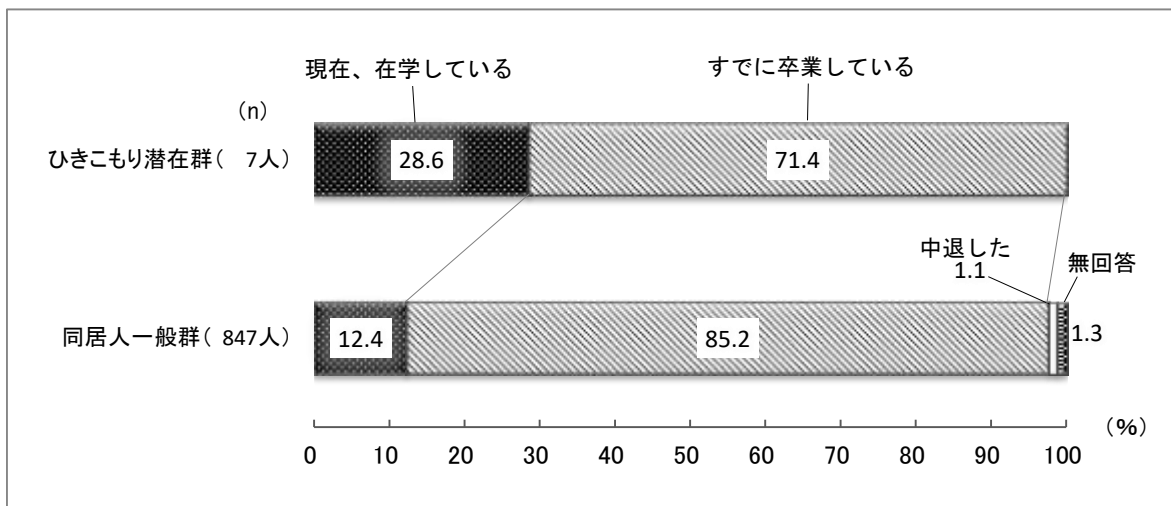


■ 学校のことについて

Q 6 調査対象の方は現在、学校に通っていますか。(単一回答)

- ひきこもり潜在群は「すでに卒業している」が71.4%、「現在、在学している」が28.6%となっている。

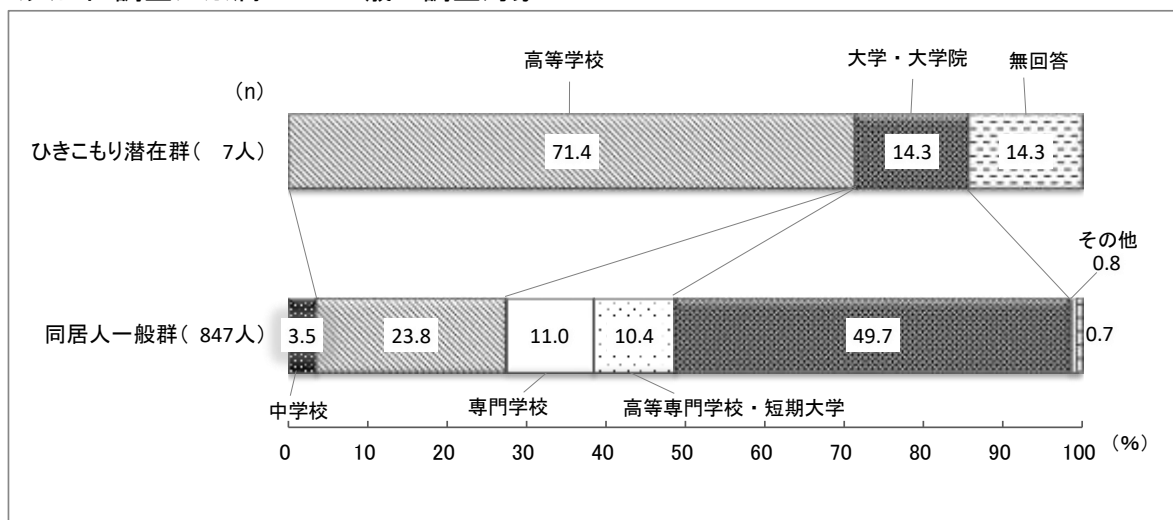
＜大田区調査＞※満15～64歳が調査対象



Q 7 調査対象の方が最後に卒業（中退を含む）した、または現在、在学している学校はどれですか。(単一回答)

- ひきこもり潜在群は「高等学校」が71.4%、「大学・大学院」が14.3%、同居人一般群は「大学・大学院」が49.7%、「高等学校」が23.8%となっている。
- ひきこもり潜在群では、同居人一般群と比べて「高等学校」の割合が高い。

＜大田区調査＞※満15～64歳が調査対象

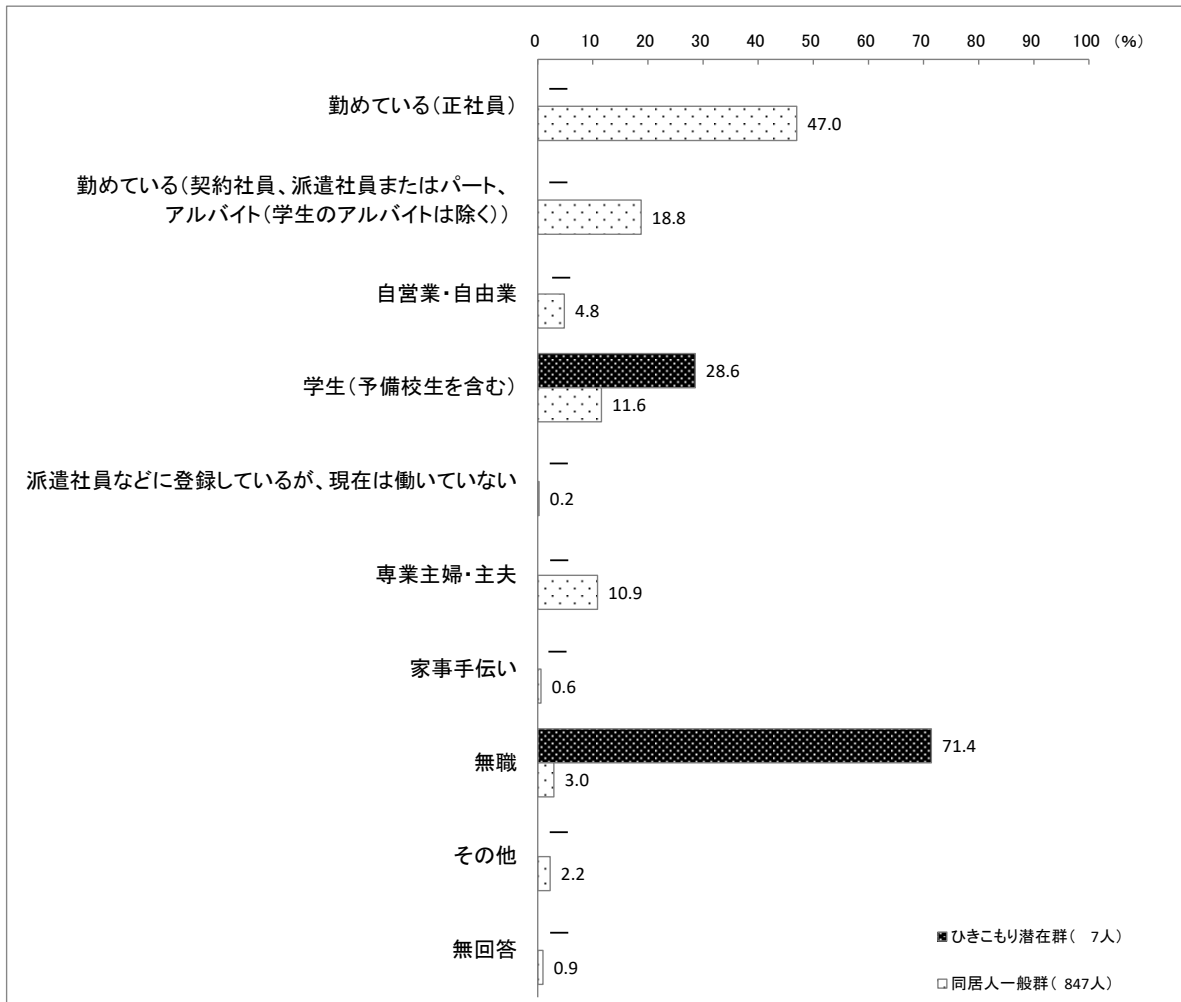


■ 仕事のことについて

Q 8 調査対象の方の現在の就労・就学等の状況についてお答えください。(単一回答)

・ひきこもり潜在群は「無職」が71.4%、「学生(予備校生を含む)」が28.6%となっている。

<大田区調査> ※満15～64歳が調査対象

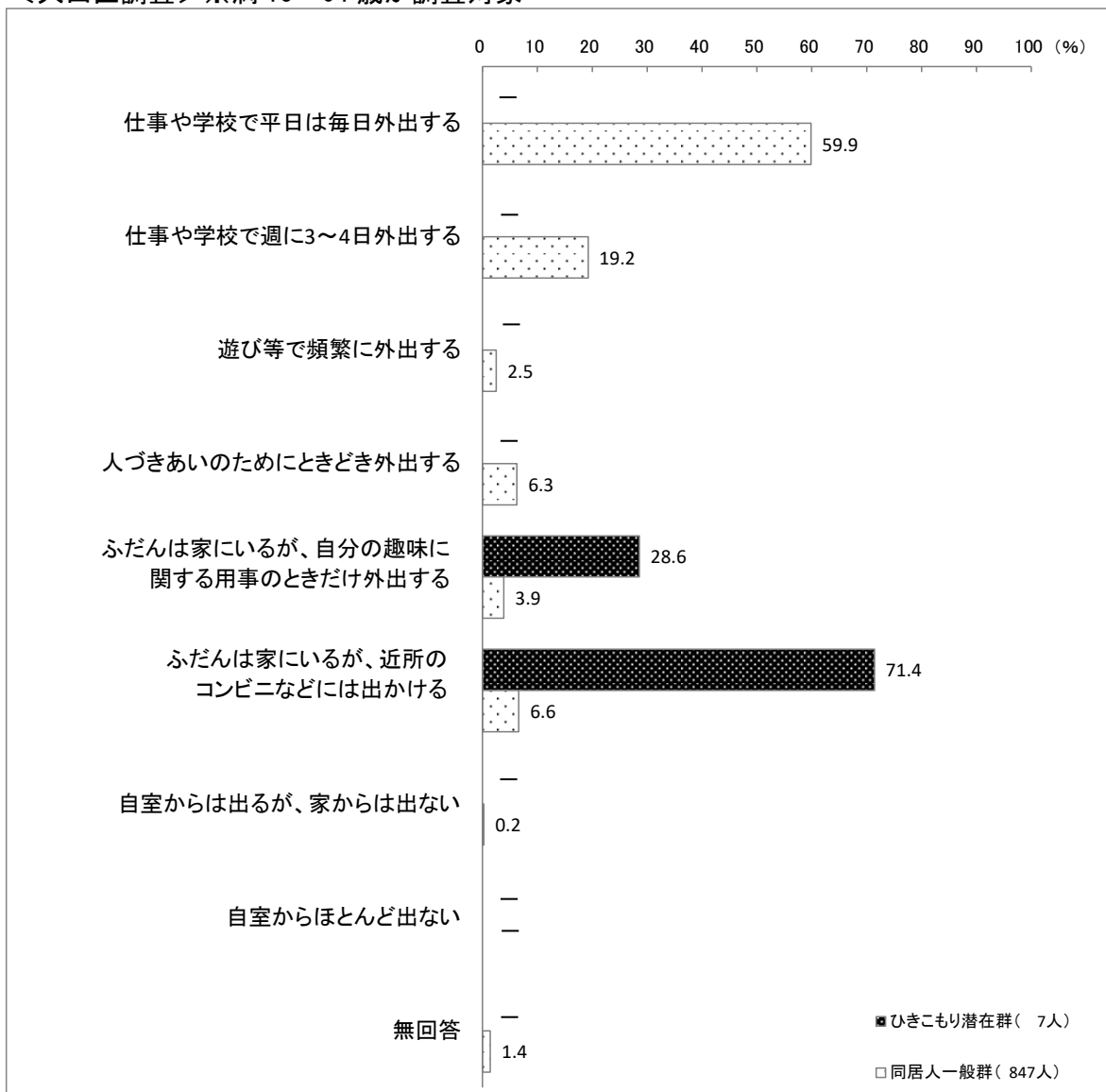


■ ふだんの生活について

Q 9 調査対象の方は、ふだんのくくらい外出しますか。(単一回答)

- ひきこもり潜在群は「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」が 71.4%、「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事のみときだけ外出する」が 28.6%となっている。
- 本人票 Q21 と同様に、自室もしくは自宅から出ないという回答はみられない。

<大田区調査> ※満 15～64 歳が調査対象

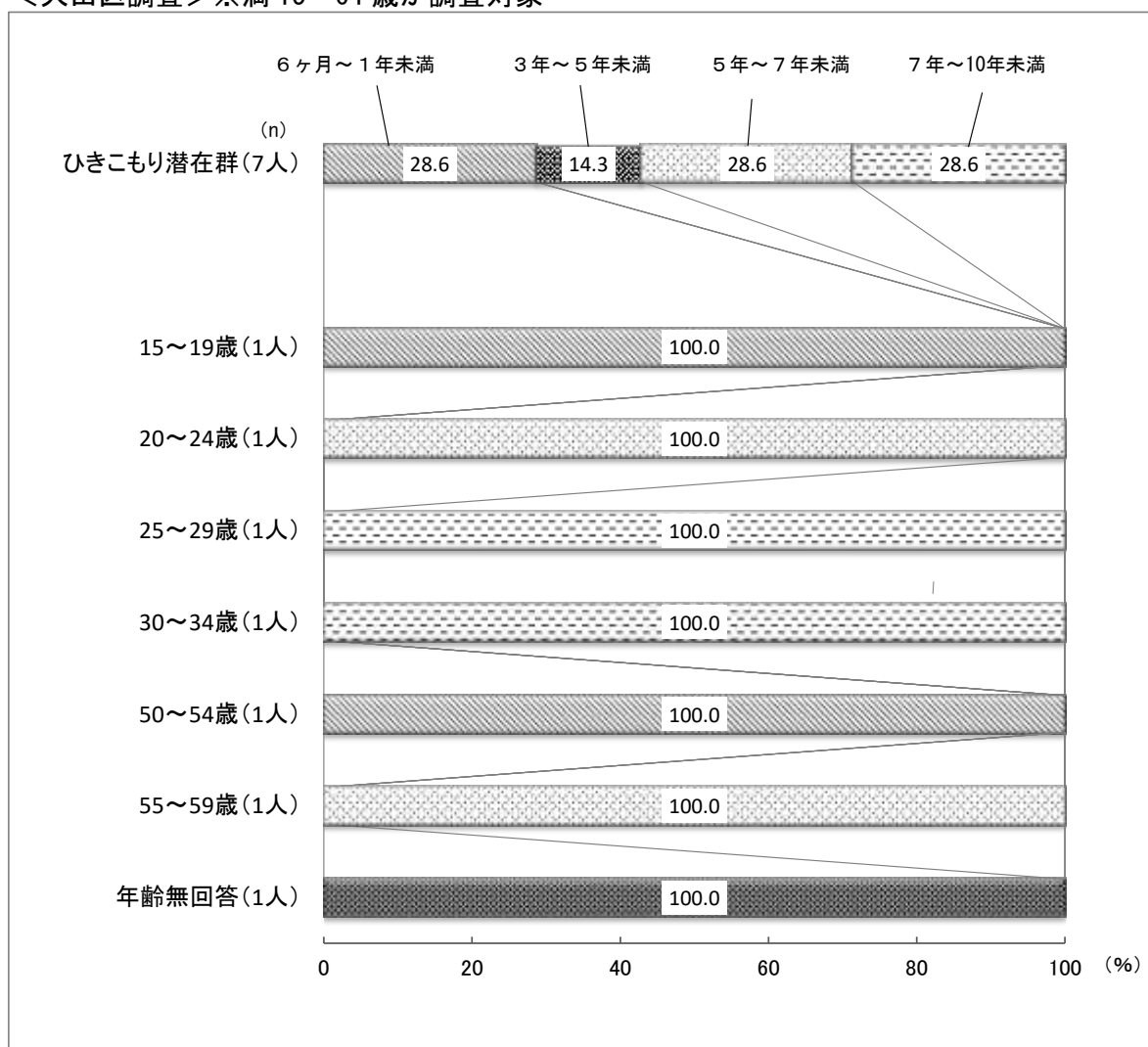


Q10 調査対象の方が、現在の状態となってどのくらい経ちますか。(単一回答)

※Q9 ふだんの外出状況に関する設問で「5～8」の趣味や近所への外出又は家から出ないと選択した方のみ回答

- ひきこもり潜在群は「6ヶ月～1年未満」「5年～7年未満」「7年～10年未満」がいずれも28.6%、「3年～5年未満」が14.3%となっている。

<大田区調査> ※満15～64歳が調査対象

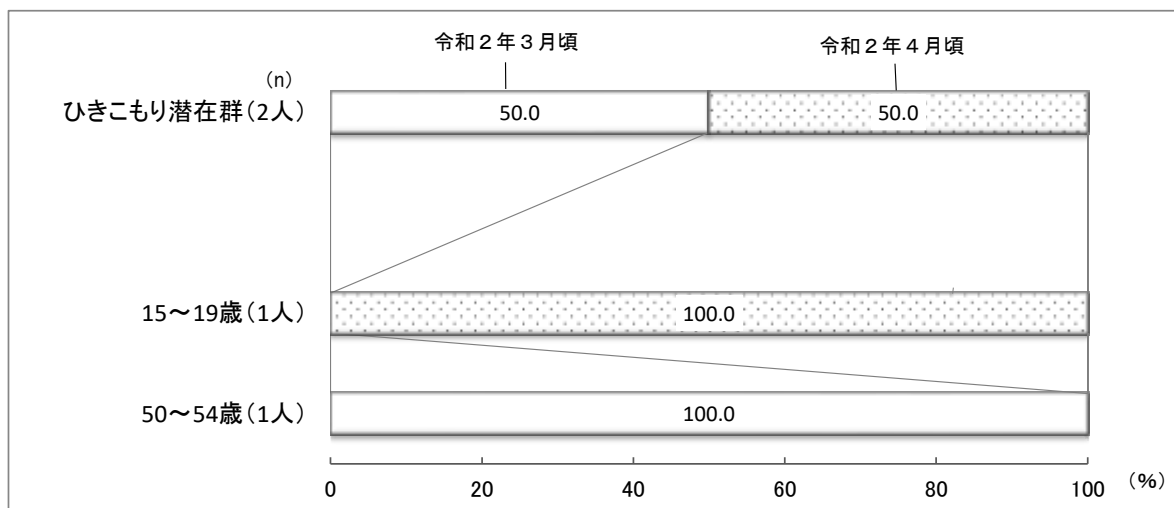


Q 1 1 おおよその時期を記入してください。(数字で具体的に)

※Q 9 ふだんの外出状況に関する設問で「5～8」の趣味や近所への外出又は家から出ないと選択した方かつ、Q 1 0 現在の状態になってからの期間に関する設問で「1～2」の6か月未満又は6か月～1年未満と選択した方のみ回答

- ひきこもり潜在群は「令和2年3月頃」及び「令和2年4月頃」が50.0%となっている。これについては、新型コロナウイルスの影響が考えられる。

＜大田区調査＞※満15～64歳が調査対象

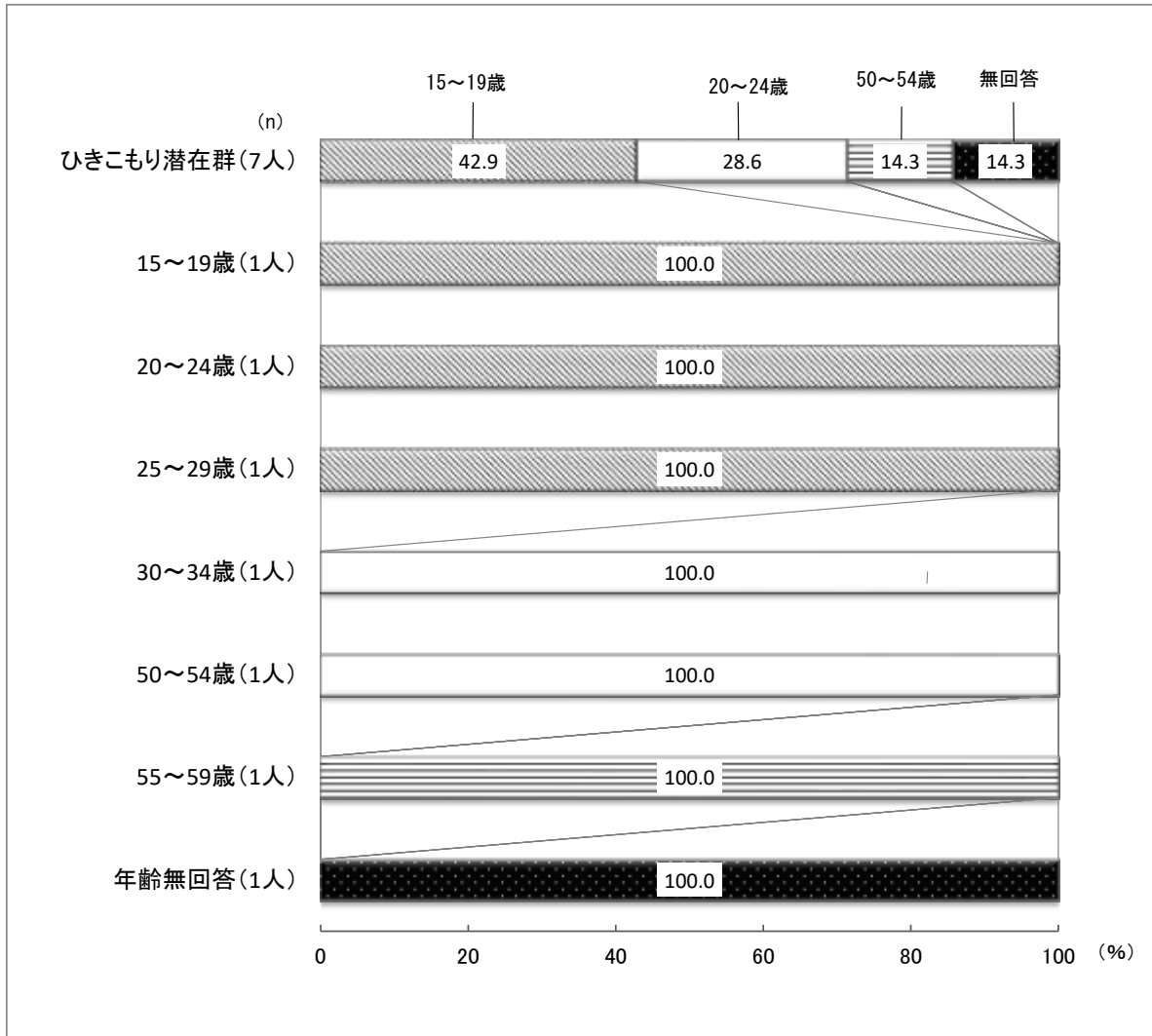


Q 1 2 初めて現在の状態になったのは、調査対象の方が何歳の頃ですか。(数字で具体的に)

※Q 9 ふだんの外出状況に関する設問で「5～8」の趣味や近所への外出又は家から出ないと選択した方のみ回答

- ひきこもり潜在群は「15～19歳」が42.9%、「20～24歳」が28.6%となっている。
- 本人票Q24と同様に、10～20代との回答が7割以上を占めており、きっかけが若年の時期にあることがうかがえる。

<大田区調査>※満15～64歳が調査対象

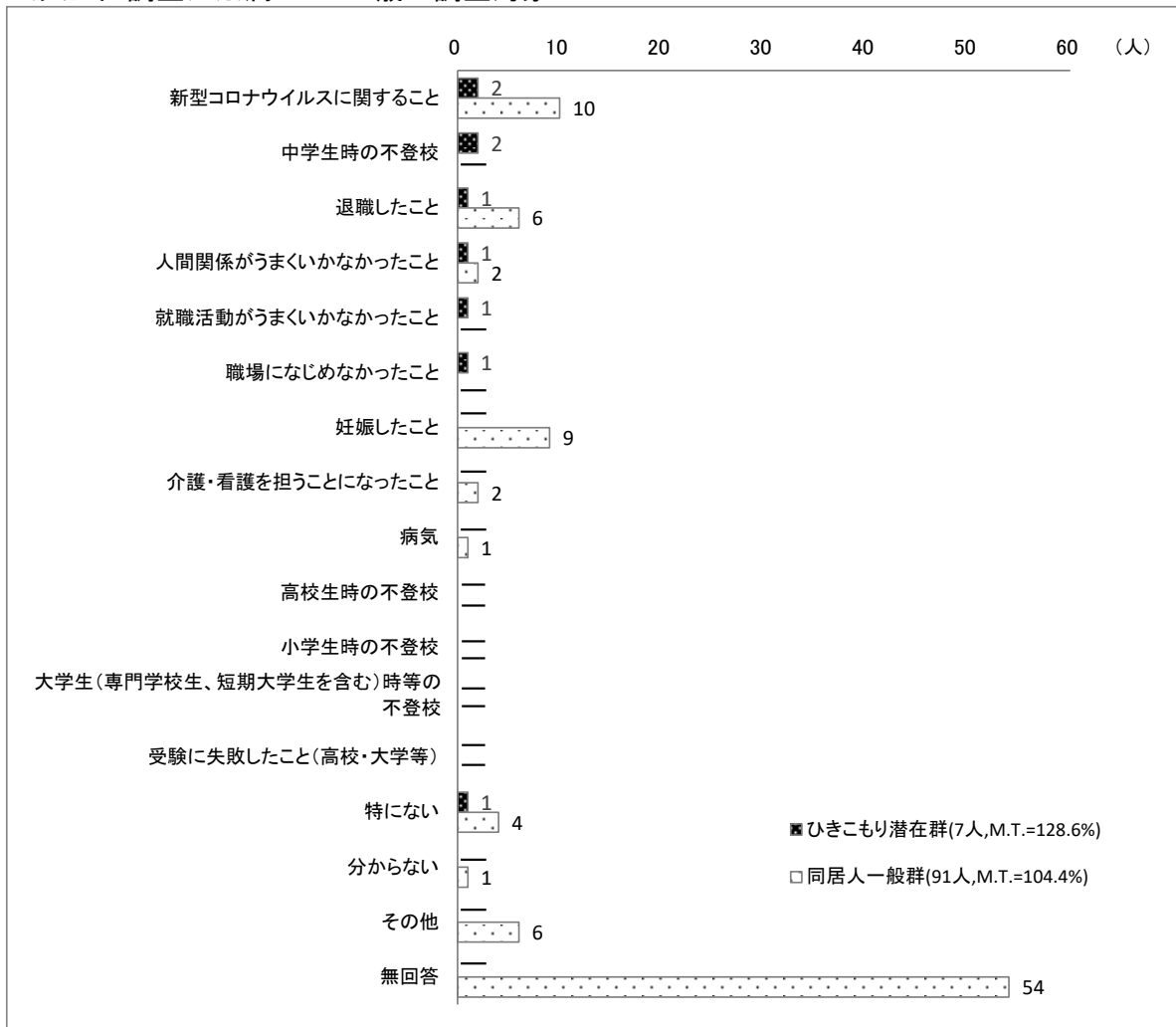


Q 13 調査対象の方が現在の状態になったきっかけは何ですか。(複数回答)

※Q 9 ふだんの外出状況に関する設問で「5～8」の趣味や近所への外出又は家から出ないと選択した方のみ回答

- ひきこもり潜在群は「新型コロナウイルスに関すること」「中学生時の不登校」が上位になっている。

<大田区調査> ※満 15～64 歳が調査対象



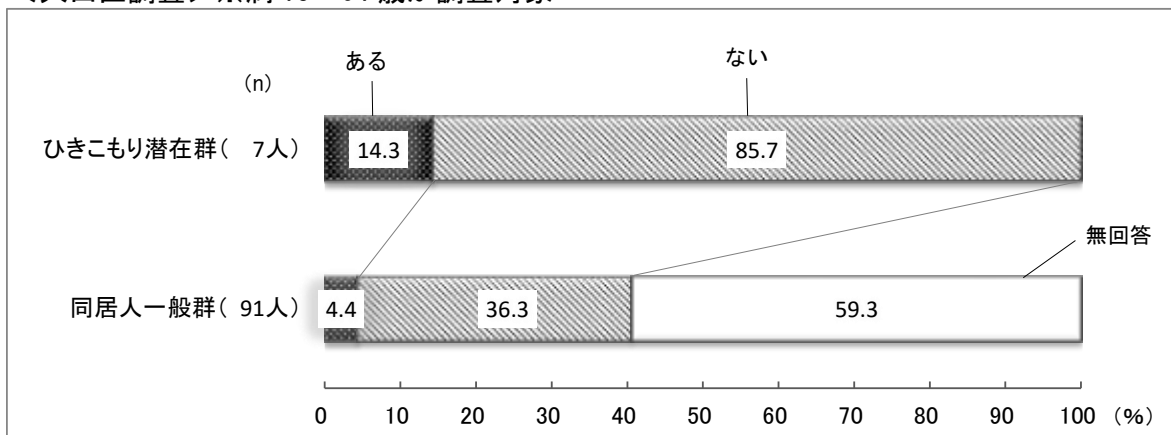
Q 1 4現在の状態について、調査対象の方が関係機関に相談したことはありますか。

(単一回答)

※Q 9 ふだんの外出状況に関する設問で「5～8」の趣味や近所への外出又は家から出ないと選択した方のみ回答

- ・ひきこもり潜在群は「ない」が85.7%、「ある」が14.3%となっている。
- ・本人票 Q30 と同様に、相談したことがない割合が高いが、一方、「ある」との回答もあり、当事者の状況によって相談につながっていることがうかがえる。

<大田区調査>※満 15～64 歳が調査対象



Q 1 5どのような相談機関等に相談しましたか。相談したことの機関に○をつけてください。

(複数回答)

※Q 9 ふだんの外出状況に関する設問で「5～8」の趣味や近所への外出又は家から出ないと選択した方かつ、Q 1 4現在の状態について、関係機関への相談の有無に関する設問で「1」のあると選択した方のみ回答

<大田区調査>※満 15～64 歳が調査対象

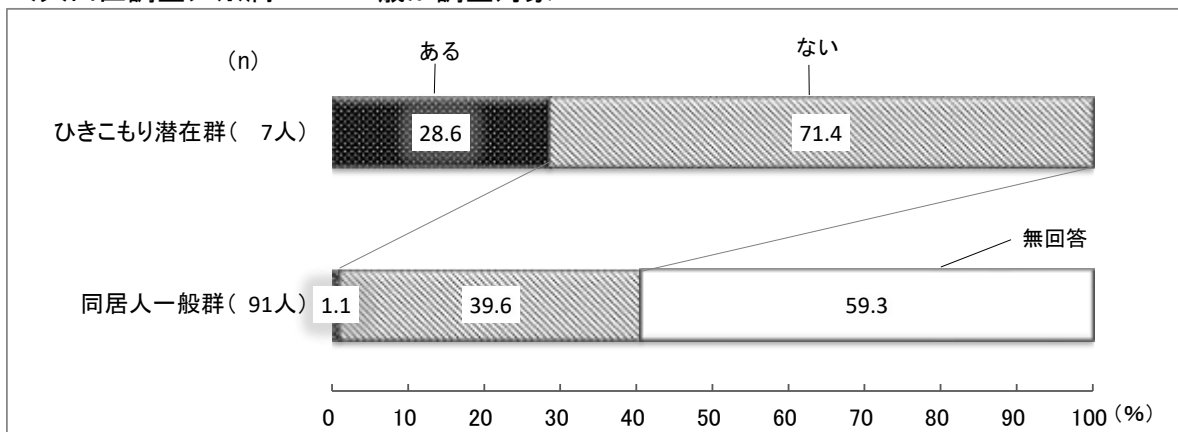
	ひきこもり潜在群(2人)	同居人一般群(4人)
生活福祉課、福祉事務所	1	
適応指導教室	1	
病院、診療所		2
職業安定所(ハローワーク)、ジョブカフェ、地域若者サポートステーションなどの就労支援機関		1
その他の施設・機関		1

Q 1 6 現在の状態について、調査対象者と同居されている方が関係機関に相談したことはありますか。(単一回答)

※Q 9 ふだんの外出状況に関する設問で「5～8」の趣味や近所への外出又は家から出ないと選択した方のみ回答

- ひきこもり潜在群は「ない」が71.4%、「ある」が28.6%となっている。
- 同居人票Q14 と比べて「ある」の割合が高く、当事者より同居している人の方が相談につながりやすい傾向にある。

＜大田区調査＞※満 15～64 歳が調査対象



Q 1 7 どのような相談機関等に相談しましたか。相談したことの機関に○をつけてください。(複数回答)

※Q 9 ふだんの外出状況に関する設問で「5～8」の趣味や近所への外出又は家から出ないと選択した方かつ、Q 1 6 現在の状態について、関係機関への相談の有無に関する設問で「1」のあると選択した方のみ回答

＜大田区調査＞※満 15～64 歳が調査対象

	ひきこもり潜在群(3人)	同居人一般群(1人)
病院、診療所	1	
教育センター・教育相談室	1	
職業安定所(ハローワーク)、ジョブカフェ、地域若者サポートステーションなどの就労支援機関		1
上記以外の民間の相談機関・支援機関(NPO等)	1	

Q 1 8 相談機関に相談した結果について、どのようにお考えですか。ご自由にお書きください。

※Q 9 ふだんの外出状況に関する設問で「5～8」の趣味や近所への外出又は家から出ないと選択した方かつ、Q 1 6 現在の状態について、関係機関への相談の有無に関する設問で「1」のあると選択した方のみ回答

<大田区調査> ※満 15～64 歳が調査対象

	ひきこもり潜在群(1人)
今の状況を継続していく。	1

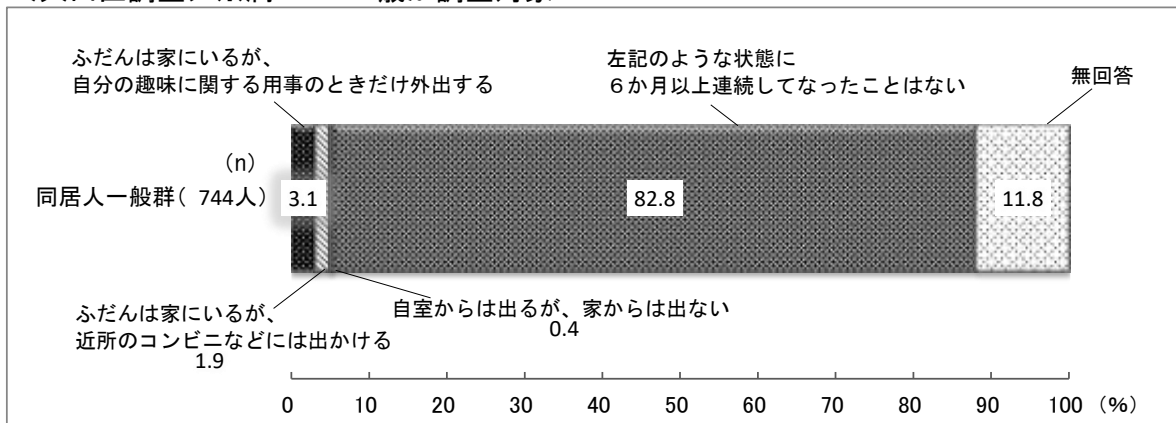
■ 過去の生活について

Q 1 9 調査対象の方は今までに6か月以上連続して、以下のような状態になったことはありますか。(単一回答)

※Q 9 ふだんの外出状況に関する設問で「1～4」の平日は仕事や学校で外出する又は人づきあいのためときどき外出すると選択した方のみ回答

- ・ひきこもり潜在群は該当者なし。
- ・同居人一般群は「左記のような状態に6か月以上連続してなったことはない」が82.8%となっている。一方、外出機会が限定的な方や家から出ない生活をしていた方も合わせて5%程度みられた。

<大田区調査> ※満 15～64 歳が調査対象

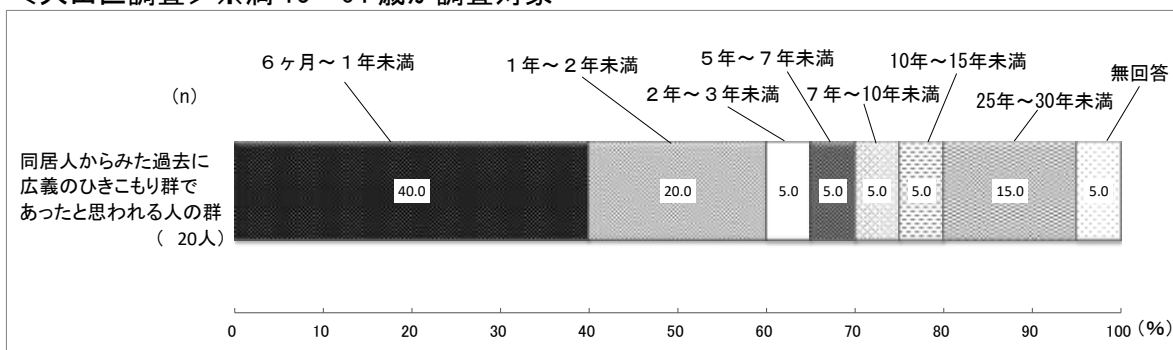


Q 2 0 その状態はどれくらい続きましたか。(単一回答)

※Q 9 ふだんの外出状況に関する設問で「1～4」の平日は仕事や学校で外出する又は人づきあいのためときどき外出すると選択した方かつ、Q 1 9 過去の外出状況に関する設問で「1～4」の6か月以上連続して趣味や近所への外出又は家から出ないと選択した方のみ回答

- ・大田区の同居人票からみた過去に広義のひきこもり群であったと思われる人の群（以下、「同居人票からみた過去の広義のひきこもり群」という。）は「6か月～1年未満」が40.0%、「1年～2年未満」が20.0%となっている。
- ・本人票 Q34 の過去の広義のひきこもり群と同様に短期間の傾向にある。

<大田区調査> ※満 15～64 歳が調査対象

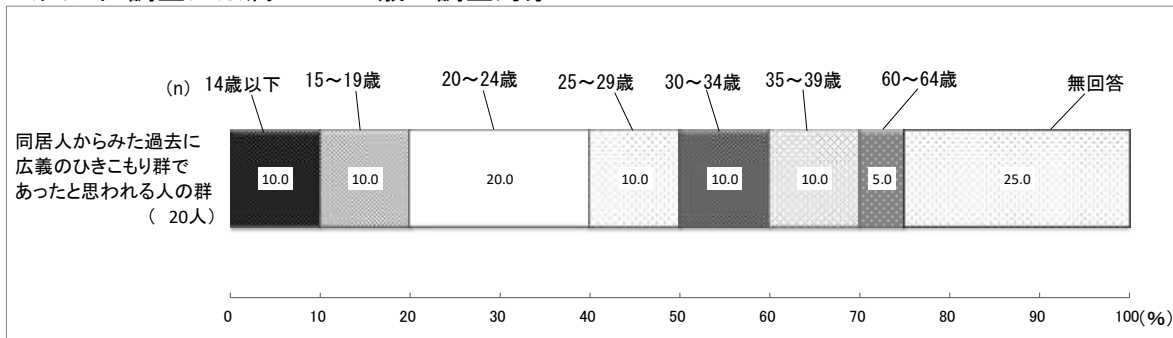


Q 2 1 初めてその状態になったのは、調査対象の方が何歳の頃ですか。(数字で具体的に)

※Q 9 ふだんの外出状況に関する設問で「1～4」の平日は仕事や学校で外出する又は人づきあいのためときどき外出すると選択した方かつ、Q 1 9 過去の外出状況に関する設問で「1～4」の6か月以上連続して趣味や近所への外出又は家から出ないと選択した方のみ回答

- ・大田区の同居人票からみた過去の広義のひきこもり群は「20～24歳」が20.0%となっている。
- ・本人票 Q35 の過去の広義のひきこもり群と同様に、30歳未満の割合が高く5割を占めており、過去に外出頻度が限定的になったきっかけが若年の時期にあったことがうかがえる。

<大田区調査> ※満 15～64 歳が調査対象

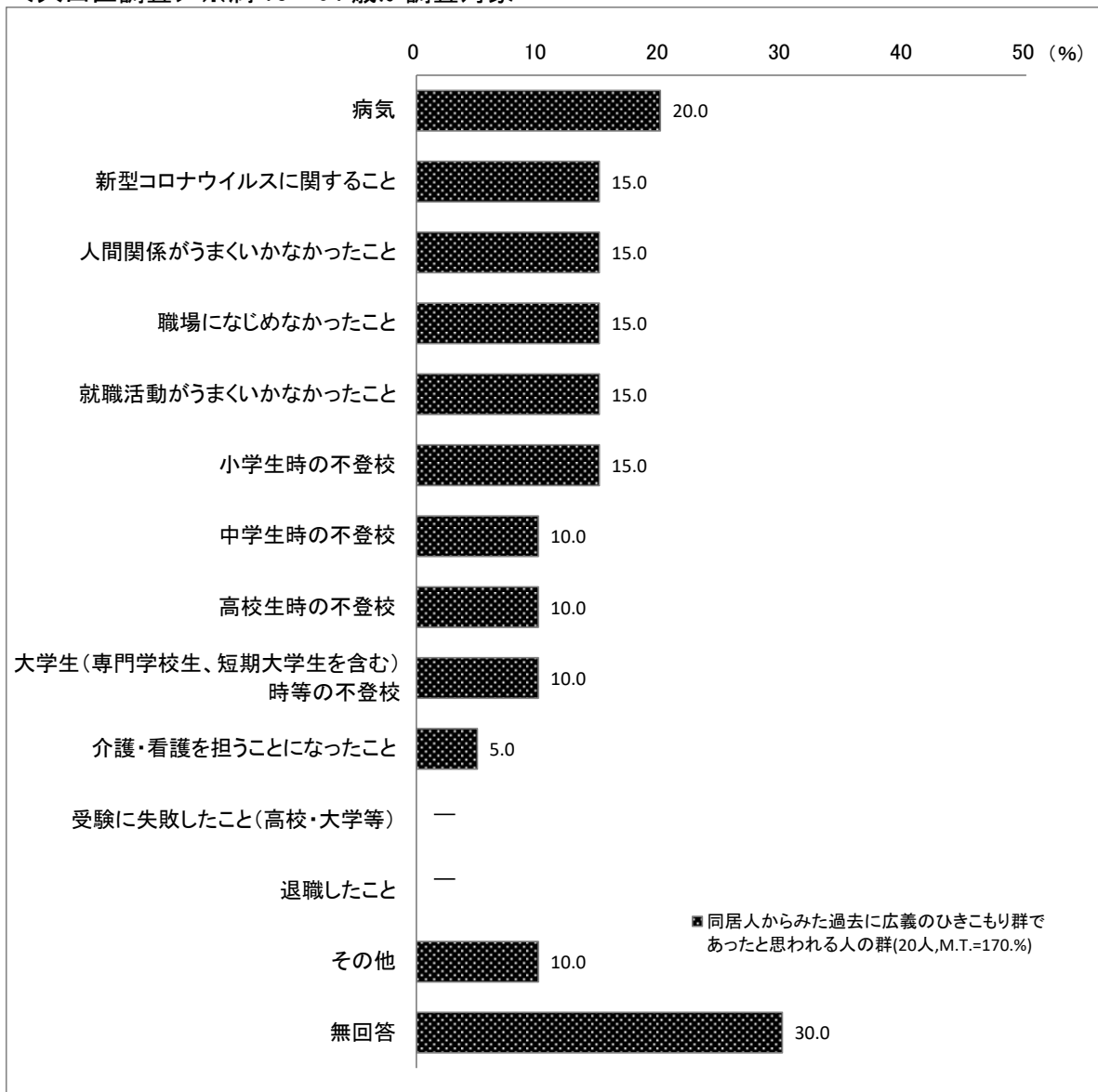


Q 2 2 調査対象の方がその状態になったきっかけは何でしたか。(複数回答)

※Q 9 ふだんの外出状況に関する設問で「1～4」の平日は仕事や学校で外出する又は人づきあいのためときどき外出すると選択した方かつ、Q 1 9 過去の外出状況に関する設問で「1～4」の6か月以上連続して趣味や近所への外出又は家から出ないと選択した方のみ回答

- 大田区の同居人票からみた過去の広義のひきこもり群は「病気」が20.0%、「新型コロナウイルスに関すること」「人間関係がうまくいかなかったこと」「職場になじめなかったこと」「就職活動がうまくいかなかったこと」「小学生時の不登校」がそれぞれ15.0%となっている。
- 本人票 Q36 の過去の広義のひきこもり群と比べて「病気」が多かったものの、人間関係や不登校などの回答が多く同様の傾向にある。

<大田区調査>※満15～64歳が調査対象

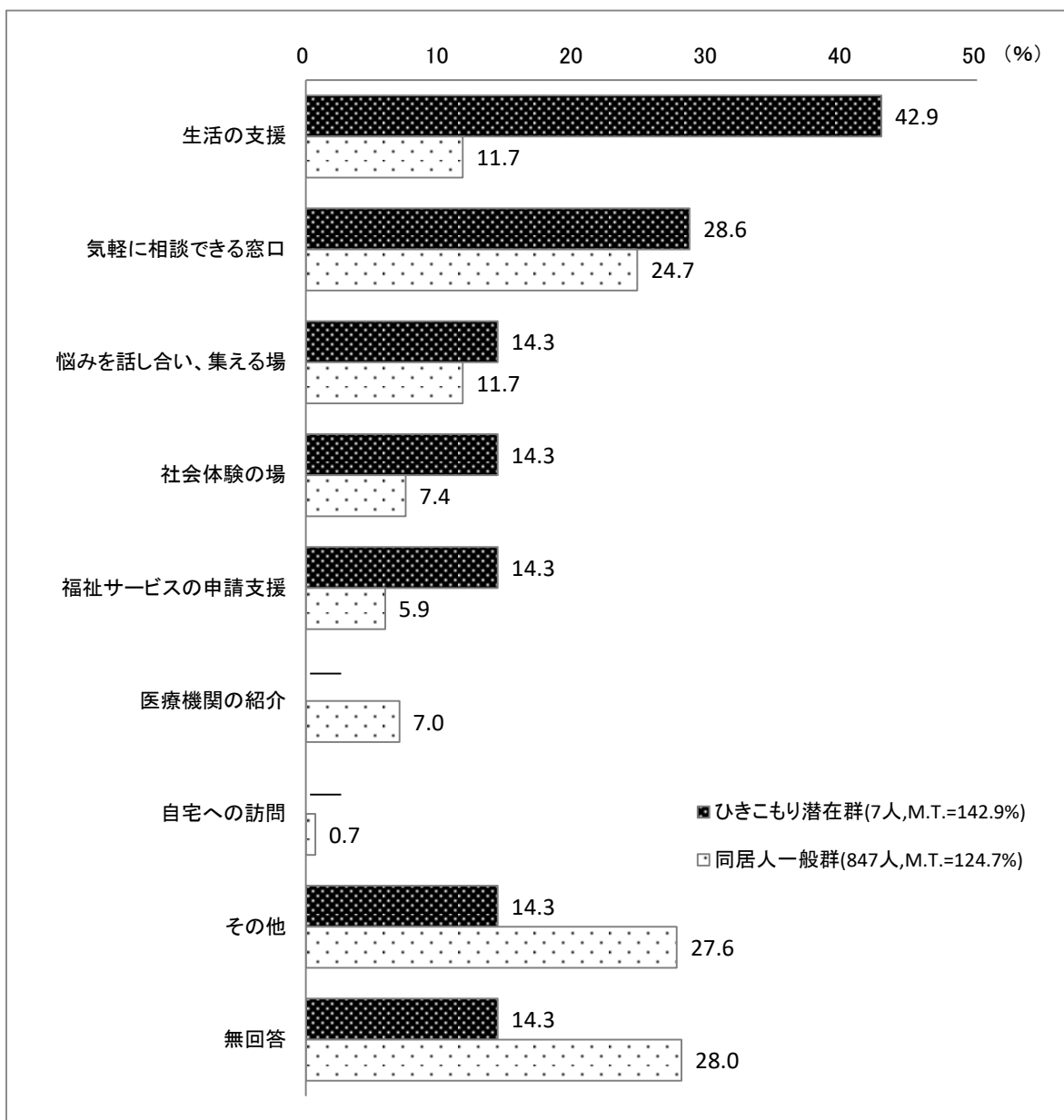


■ 必要な支援・あり方について

Q 2 3 調査対象の方の現在の状態について、どのような支援が必要と感じますか。(複数回答)

- ・ひきこもり潜在群は「生活の支援」が42.9%、「気軽に相談できる窓口」が28.6%、同居人一般群では「気軽に相談できる窓口」が24.7%となっており、「気軽に相談できる窓口」や「生活の支援」の必要性を感じている割合が高い。

<大田区調査>※満15~64歳が調査対象



Q 2 4 現在、大田区では、身体の病気以外の理由でふだん外出ができない方たちへの支援のあり方を検討しています。こうした支援のあり方について、ご意見があれば、自由にお書きください。

- 本人票 Q45 と同様に、支援の必要性を感じている回答が多く、相談できる場の設置やオンラインなど当事者とその家族に直接届くような支援体制に関する回答が多くみられた。

<大田区調査> ※満 15～64 歳が調査対象

記述概要	回答数
支援が必要である	15
オンライン支援	12
当事者の家族へのサポートや支援の実施	11
相談やカウンセリングの実施	10
専門的な支援の構築	10
社会との関わりを作るための支援	9
情報・広報の充実	9
訪問や声かけなどの見守り実施	7
当事者への就労支援	5
当事者第一の支援	4
関係機関とのネットワークづくり	3
当事者同士のグループ活動、居場所づくり等の設置	3
当事者への経済的な支援	2
その他	79
	179

Q 25 調査対象の方に関して、現在や将来のことについて、不安に思うことはありますか。ご自由にお書きください。

- ・生活面や経済面に関する不安が高かった。新型コロナウイルスに関連した不安も多く、調査時の社会情勢が影響したとうかがえる。

<大田区調査>※満 15～64 歳が調査対象

記述概要	回答数
生活 (不安定な生活、親亡き後の生活、子育て等)	25
新型コロナウイルス (就職活動、学校生活、収入減、ストレス、アフターコロナの生活等)	22
お金 (生活資金、収入減等)	18
行政 (待機児童問題、子育て支援、ひとり親への支援、高齢者への介護支援等)	16
仕事 (就職活動、雇用不安等)	14
健康 (病気、過労等)	13
老後 (生活資金、年金、老々介護等)	13
制度 (年金、働き方改革等)	6
勉強 (オンライン授業、進路等)	6
政治 (少子高齢化、経済、オリンピック等)	3
家族 (待機児童問題、こどもの生活態度)	2
恋愛・結婚 (出会いがないこと)	1
その他	86
	225

4 まとめ

今回の調査において、大田区のひきこもり群は、若年層と中高年層の割合が高いものの全世代にわたっており、ひきこもりの要因も人間関係の不調や不登校の経験など様々であった。平成 27 年度及び平成 30 年度に内閣府が行った調査と概ね同様の傾向であったが、大田区のひきこもり群は、ひきこもり期間が比較的短く、外出機会は限られるものの自室もしくは自宅から出ない方はいなかった。

こうした結果を踏まえ、大田区のひきこもり支援のあり方を検討するに当たり、重視すべき視点を整理した。

1 相談窓口の設置、専門性を有する相談員の配置

○関係機関へ相談したことのある方は少なく、相談しても解決できないと考える方は多いが、一方で悩み事を誰かに相談したいと思っている方は多い。また、本人より家族のほうが相談につながりやすい傾向にある。ひきこもりの予防や長期化を防ぐためには、早めの相談や早期支援が望ましいが、対人緊張や不安から関係機関への相談を躊躇する方も多いと考えられる。各世代について、本人または家族が身近な場所で安心して相談できる窓口を設け、開設場所や利用方法などを広く周知する必要がある。

○ひきこもり支援は、本人の年齢やひきこもりの要因、現在の状況、本人の意向などにより支援策は多様である。相談員には、本人や家族が抱える課題を包括的に受け止め、適切な支援プランの作成や様々なソーシャルキャピタルをコーディネートできる専門性が必要である。

2 複数の機関による連携した支援の必要性

○ひきこもりの開始年齢は 10～20 代の方が多く、ひきこもり状態になったきっかけを若年の時期にもつ方が多い。過去に不登校を経験した方や、不登校をきっかけにひきこもり状態になった方もおり、学校卒業後にスクールソーシャルワーカー等の支援が途切れることで社会的に孤立することのないよう、卒業後も地域の支援機関等で支援を継続できる仕組みが必要である。

○ひきこもりに関する相談は、本人の年齢や状況によって、教育、福祉、保健、医療機関などが個別に応じているが、特定の支援機関だけで解決することは難しい。複合的な課題について、関連する複数の機関で連携し、支援していく必要がある。

3 本人の社会参加に向けた支援の充実

○普段自宅でよくしていることはインターネットが最も多く、利用している通信手段もインターネットや携帯電話を用いるものの割合が高い。窓口や電話、訪問による相談のほか、ICTを活用した有効な支援のあり方を検討する必要がある。

○ひきこもり状態から改善したきっかけは、就労が最も多く、趣味活動や健康への取り組みなど様々である。ひきこもりの長期化を防止するためには、本人の心身の状態に合わせた段階的・継続的な支援が不可欠であり、本人の社会復帰への関心を育みながら、次のステップへ移行できる仕組みが必要である。また、周囲とのコミュニケーションも主な改善のきっかけの一つであった。本人が悩みや不安を安心して話し、自己の存在や役割を感じられる場が必要である。

○大田区のひきこもり群は、過去に就労経験のある方が多く、自分に適した仕事に就くことへの期待を持ち、定職に就く必要性を感じている割合が高い。就労経験のある方については、適職とマッチングすることで状況の改善が期待できる。就労支援に当たっては、在宅での就労の紹介や就労に向けた訓練の実施、ボランティアの参加を促すなど、本人の状況や意向、適性に合った段階的な提案が必要である。

4 家族への支援の充実

○大田区のひきこもり群は、単身または二人暮らしが多く、同居者が少ない傾向にある。悩みを親や配偶者に相談する方が多いことから、本人の相談を受ける中で、家族が家庭内で現状に対する悩みや将来的な不安を抱えてしまう可能性も考えられる。家族の悩みや不安を軽減し、本人と良好な関係を維持するためにも、家族がひきこもりについて学び、情報交換できる機会が必要である。

○ひきこもりの方が家族をはじめ身近な人と信頼関係を築くことで、孤独感の緩和や自己肯定感が高まり、状況の改善が期待できる。家庭において、本人の悩みや不安に対して家族が寄り添い応援できるよう、家族がひきこもりの方への適切な対応について専門家に助言を求められる場が必要である。